

## 市の借金はどうなっているの？

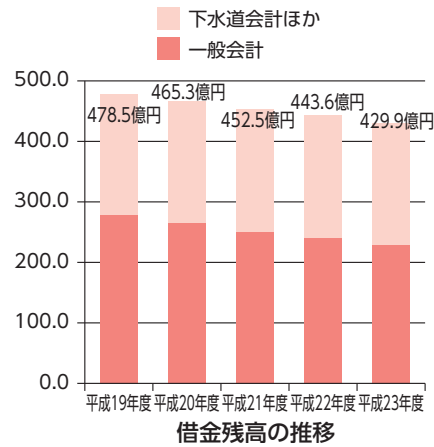


### 市の借金の残高は着実に減少

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される大規模な施設を整備する時には、国や銀行から長期間で返済する資金を借り入れており、これらは市の借金にあたります。市の借金残高は、昨年度末に比べて、13・7億円（3・1割）減少し、平成17年度以降、7年連続で減少しています。

その反面、平成23年度の借金の返済額（公債費）は46・7億円（一般会計32・7億円／下水道会計ほか14・0億円）に上り、市の台所を圧

迫する大きな要因となっています。



## 市には貯金がどれくらいあるの？



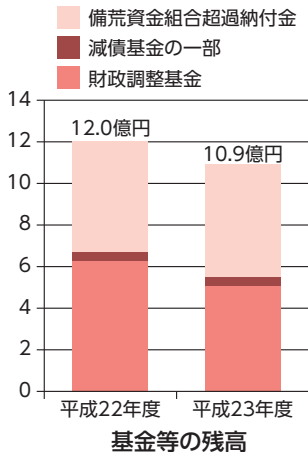
### 自由に使うことができる貯金は昨年度末に比べ1・1億円減少

市は、もしもの時の備えや特別な用途に使うことを目的に、19の基金等を積み立てています。

このうち、台所事情が苦しい時などに自由に使うことができる基金等は、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類で、市がもしもの時に使うことができる貯金にあたります。

平成23年度末のこれら貯金の残高は、合計で10・9億円となり、昨年度末の残高に比べて1・1億円減少しました。これは、平成23年度、厳

しい台所事情の中、収入の不足分を補うために、財政調整基金を下ろしたためです。



## これからの台所事情

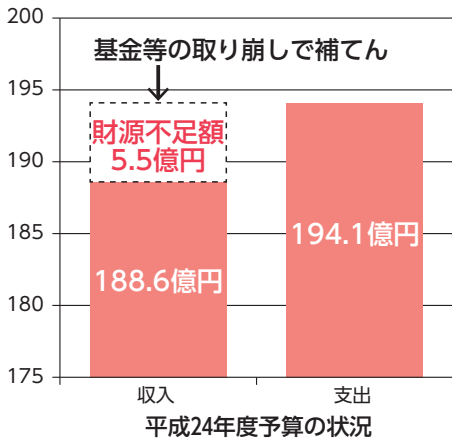


### 平成24年度予算では5・5億円の財源不足

平成24年度の予算（一般会計）では、194・1億円の支出に対して、188・6億円の収入しか見込めず、5・5億円の収支不足が生じました。

この収支不足については、全額を貯金の取り崩しで埋める予定であり、仮に年度内に財政が好転せず、収支不足が解消されない場合には、平成23年度末に10・9億円あった貯金の残高は、平成24年度末には5・4億円まで減少してしまいます。

そのため、平成24年度の財政運営にあたっては、少しでも収支不足額を少なくし、貯金を下ろさなくて済むよう、適切に収入を確保すること



はもちろん、無駄な支出がないかチェックを重ねるなどの努力をしようとするところです。

今後についても、高齢者人口の増加で社会保障費の増加が見込まれること、この先数年間は借金の返済にも多くのお金を要することなどから、市の台所は引き続き厳しい状況が続きます。

また、市民の皆さんから納めていただく税金（＝市税）は、景気低迷や人口減少の影響から、今後大きく増やすことは難しい状況ですし、国から交付される地方交付税についても、国の財政状況から大きく減らされるのが心配されるなど、市を取り巻く環境はいつそう厳しさを増すことが予想されます。

そうした中であって、市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供していくためには、職員数の見直しや民間活力の活用など、サービスの効率性を不断に検証することはもちろん、時代の変化により不要となったサービスの見直しなどにも積極的に取り組まなければならないと考えています。